

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



レブンアツモリソウの研究報告

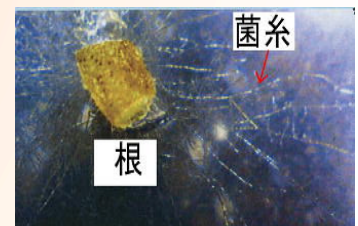
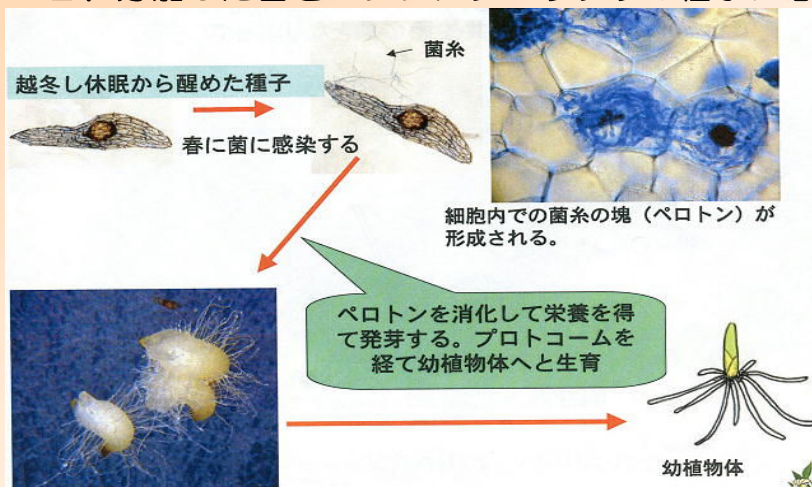


礼文島にしか自生していないレブンアツモリソウは、島民の皆様の財産です。

過去に盗掘されるなど、その数は徐々に減ってきています。このような状況が長く続くと、絶滅につながってしまうかもしれません。そうならないようにレブンアツモリソウの生態を調べ、ひいては増殖方法を見つけるために研究をしてきている方達があります。その中から分かってきたことを紹介していきたいと思います。

菌と共生して発芽していることが判明したレブンアツモリソウですが、人工的にどのようにして発芽させるのでしょうか。

- 1、自然界のレブンアツモリソウの根から共生菌を分離
- 2、分離した菌をレブンアツモリソウの種子に感染させる



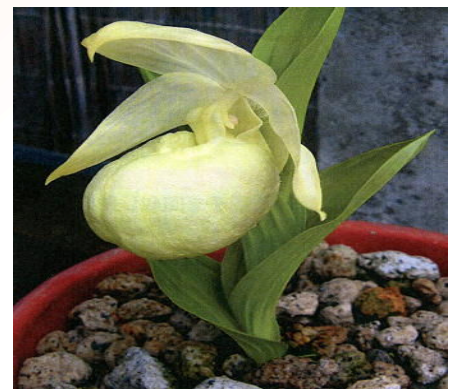
共生発芽個体の成長過程

様々な実験結果から、越冬し休眠から醒めた種子でなければうまくいかないことや、レブンアツモリソウと菌との関係は生存を賭けた闘争であり、菌に勝たなければ菌の餌となり、腐ってしまうことなどが分かりました。

共生菌に着目したレブンアツモリソウの増殖方法が確立されています。



鉢上げした個体



6年で共生発芽株が開花

(資料提供)
北海道大学名誉教授 幸田泰則氏